

1. 活動の概要

対象地区は、福島県二本松市東和地区戸沢7区保全会である。この地区（保全会）は、農地・水・環境保全向上対策事業を実施するために、平成19年3月に設立され、現在は農業対策と地域間交流等による地域活性化を目的とし、会員74戸での活動が行われている。典型的な中山間地域であり、平成22年に135人だった人口は、現在94人まで減少しており、さらに高齢化率（65歳以上）は43.6%である。耕作放棄、里山の荒廃も急速に拡大しており、地域住民の関係も疎遠になりつつある。また、有害鳥獣被害も拡大しており、風評被害も相まって農家の営農意欲が削がれ、更に耕作放棄が拡大するという悪循環に陥っている。

また、本研究において、大きなキーワードとなったのが、地域住民との相互理解である。地域に入っていくという行為は、そう簡単なものではなく、数多くの訪問の中で、地域住民らとの相互理解を深めることにより、本調査を行うことが可能となった。以上から、地域住民らの声を取り入れたより本質的な地域活性化案の提案には、地域住民、研究者共に多くの労力を要すると感じた。しかし、多くの地方で地域活性化に対して、積極的に活動できる地域住民らがいる地域ばかりではないだろう。この矛盾をどのように乗り越え、地域住民ら自身の積極的な行動の促進につながる活性化案が効率的に提案できるのかどうか今後の課題として残る結果となった。



2. 今年度の活動内容

- ① 令和元年 8 月 7 日 東和支所でのキックオフ・ミーティング
- ② 令和元年 9 月 23 日 役員会での活動打合せ（第 1 回）
- ③ 令和元年 10 月 19・20 日 役員会での活動打ち合わせ（第 2 回）
- ④ 令和元年 11 月 17・18 日 役員会での災害復旧活動打ち合わせ（台風被害）
- ⑤ 令和元年 11 月 30 日・12 月 1 日 災害復旧活動（台風被害）への参加
対面によるアンケート調査（第 1 回）
- ⑥ 令和元年 12 月 21・22 日 環境学習会への参加
対面によるアンケート調査実施（第 2 回）
- ⑦ 令和 2 年 1 月 25 日・26 日 集落座談会：活動内容の報告と意見交換
外部有識者による評価（アドバイザー：農研機構 関根久子 氏）



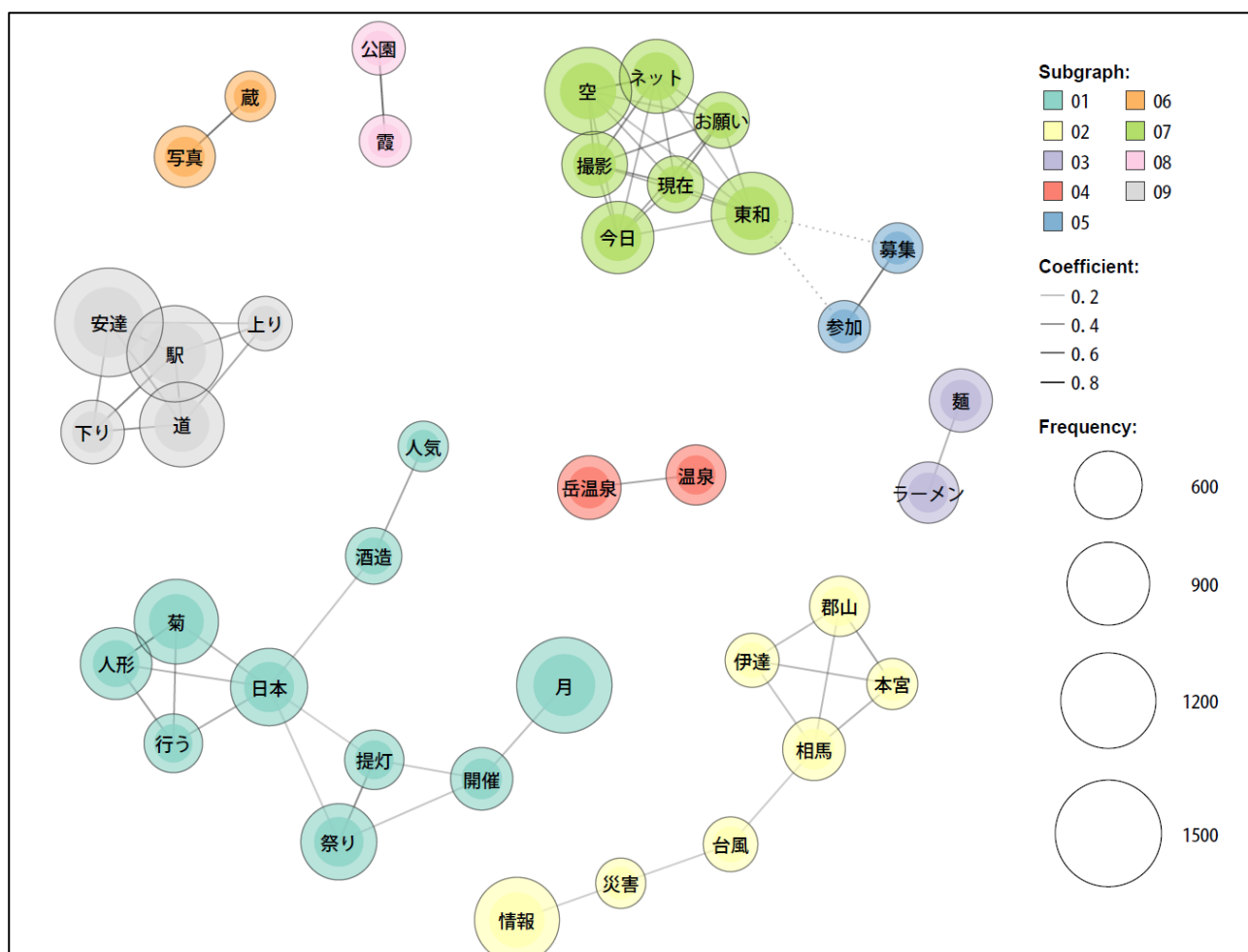
3. 活動の詳細 ①：地域資源に関する予備的考察

地域内外問わず多様な評価を受け入れ、地域資源を見直すことは、その地域の既存の魅力の深い理解や新たな魅力の発見に繋がり、地域おこしなどの施策に資するものと考えられる。このとき、地域に対する多くの声を聞くことができる媒体として、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）が存在する。SNSの代表的なサービスであるTwitterは膨大なユーザー数とテキストデータを抱え、日本国内においても日々多くのユーザーがツイートを投稿している。そこで、ここではTwitter上に投稿された福島県二本松市にまつわるツイートを対象にテキストマイニングを実施し、主にどのような地域資源が注目されているか、またそれらの資源の活用方法を考察した。

データとなるツイートを収集した対象期間は、2018年12月10日から2019年12月09日までの1年間である。これらのツイートに対し、「二本松市」をキーワードに発言を抽出・収集・分析した。分析結果から得られた頻出語リストと、そのリストを分析した結果としての共起ネットワーク図を示す。



順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	福島	8094	51	サイト	313
2	安達	1555	52	見る	312
3	桜	1367	53	震度	311
4	駅	1217	54	避難	304
5	月	1203	55	油井	302
6	空	997	56	田村	295
7	情報	953	57	知る	294
8	道	942	58	朝	287
9	菊	938	59	問い合わせ	287
10	東和	880	60	雨	286
11	日本	781	61	運動	283
12	祭り	760	62	奥	278
13	ネット	715	63	来る	278
14	今日	681	64	本日	275
15	人形	673	65	共有	272
16	撮影	564	66	発生	272
17	岳温泉	529	67	フォト	269
18	下り	524	68	発表	269
19	麺	519	69	美味しい	264
20	相馬	513	70	若武者	263
21	開催	507	71	場所	261
22	ラーメン	487	72	外気	260
23	写真	486	73	小学校	258
24	温泉	469	74	県	257
25	郡山	469	75	人	255
26	提灯	458	76	観光	248
27	行う	447	77	湯	244
28	安達太良山	443	78	練習	244
29	行く	418	79	浜江	242
30	現在	413	80	思う	240
31	酒造	412	81	今	239
32	お願い	405	82	人し	239
33	台風	387	83	最大	236
34	上り	381	84	前	234
35	安達	379	85	歓迎	231
36	伊達	378	86	松	229
37	公園	366	87	川俣	227
38	東北	363	88	体育館	227
39	センター	354	89	神社	226
40	歳	348	90	白河	226
41	参加	347	91	須賀川	223
42	本宮	337	92	クラブ	222
43	地域	331	93	鶏	220
44	蔵	327	94	少年	220
45	災害	326	95	天気	218
46	人気	326	96	寺	215
47	募集	326	97	宮城	213
48	いわき	324	98	城下町	213
49	大雨	319	99	苦手	212
50	南	316	100	山	212



共起ネットワーク図



4. 活動の詳細 ②：構成員の幸福感

地域の状況に関する予備的考察として、主観的生活満足度指標による現状把握を行った。

具体的に、WHO は健康を“病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること”と定義し、満たされた状態、すなわち“Well-Being”については様々な研究がなされてきた。また、今までの社会指標のような客観的なものだけではなく、主観的幸福感（SWB）研究のように個人の主観的判断、心理的側面に基づく指標の重要性も叫ばれ、様々な分野で取り扱われてくるようになった。

SWB 研究は、1960 年代後半から様々な研究が行われてきており、指標の作成や新たな要素を追加する方向に進歩してきた。本事業では、日本における代表的な SWB 研究のひとつである国民生活選好度調査、及び、OECD による定義に準拠した SWB に関する設問によりデータを収集し、対象地域における SWB の把握を試みた。

結果の詳細については、研究室における研究活動の詳細として取りまとめ中であるが、集落座談会において結果の概要を報告することにより、過去から現在、現在から未来に至る SWB の推移等について、問題意識の共有を行うことができた。

回答用紙 ②

令和元年度 二本松市 戸沢 7 区保全会 集落活性化支援

2019. 10. 07

主観的生活満足度に関する調査票

調査実施機関：筑波大学 国際資源開発経済学研究室 農村開発研究班

事業名：福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

連絡先：090-4382-2400 matsushita.shusuk.gb@u.tsukuba.ac.jp

担当者：松下秀介・清水悟

1. あなたは最近のご自身の生活全般について、どの程度満足しておられますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を 0、完全に満足している状態を 10 とする 11 段階での満足度の評価をお願いします。

2. あなたの昨日の気分をお聞きます。

昨日の生活全般について、どの程度幸福感を感じられましたか。

全く感じなかった	1 日中幸福感を感じていた
0	10

全く幸福感を感じなかった場合に 0、1 日中幸福感を感じていた場合を 10 とする 11 段階での評価をお願いします。

昨日の生活全般について、どの程度不安感を感じられましたか。

5. 活動の詳細 ③：地域資源の発掘と評価

地域活性化を目的とした事業では、地域住民を巻き込んだ取り組みが本質的な地域活性化の達成のためにより効果的であると考えられる。そこで本事業では、地域住民の意思決定及び合意形成を生かした活性化案に関する考察を行った。合意形成により導かれる彼らの積極的な行動が、地方の持つ限られた資源（人的、物的資本）で多くの成果を上げなくてはならない中での、少しでも効率的な案の実施に繋がるのではないだろうかということが、この作業における問題意識である。

作業は、以下の手順によって実施した。

- ①世帯調査、地域資源アンケートから、地域資源（人、モノ、自然等その地区の資源全てを対象とする）、地域の課題として住民が認識しているものをピックアップする。
- ②階層化意思決定法（AHP）を用いて、住民らの意見を数値化する。活性化という点において、より重要視すべき地域資源の発掘を行う。

ところで、地域資源の評価要因は、通常計量が困難で曖昧な要因が多く含まれている。また、限られた地域住民数のなかで多数のヒアリング調査を実施することは難しく、比較的少人数の調査から信頼性のある計量データを得ることが望ましい。そこで、本事業においては、階層化意思決定法（AHP）が最も適した解析法であり、これを採用することにした。

まず、世帯調査結果により、地域活性化の代替案として、まず回答数の一番多い自然・里山、祭りを選抜した。さらに、集落外へのアピール度という評価基準において優先度が高くなると仮説を立て、Sさんのピ

	回答者 1	回答者 2	回答者 3	回答者 4	回答者 5
集落外への アピール度	0.3230	0.2431	0.0667	0.7147	0.0426
集落内での 満足度	0.1104	0.0462	0.4667	0.0668	0.1915
持続可能性	0.5666	0.7107	0.4667	0.2185	0.7660

AHP による評価結果 地域課題 の重要度

	回答者 1	回答者 2	回答者 3	回答者 4	回答者 5
自然・里山	0.1921	0.2354	0.5253	0.0791	0.6505
祭り	0.1649	0.0702	0.1637	0.5338	0.1307
農産物	0.3928	0.1061	0.2038	0.1349	0.1307
Sさんのビール	0.2502	0.5883	0.1072	0.2522	0.0882

AHP による評価結果 地域資源 の重要度

ールを選抜した。また、この保全会が土地保有者、農業従事者（兼業農家も含む）らによって構成されていることから、農産物を代替案に加えた。地区代表者5名に実施したAHPの結果を表に示した。

アンケートの回収率は31.1%（74戸のうちの23戸）であった。

具体的に、AHPによる調査結果を見ると、同地域内でも地域活性化案に関して意見が分かれていることが分かる。回答者4を除き、持続可能性の重みが最も高いことが分かり、ここでは将来的な地域の持続性を重視した活性化を最重要視するものと定義する。

次に、特徴が顕著に現れた回答者2と回答者4の回答をピックアップして考察をする。回答者2は、持続可能性を重要視していた。“持続可能性とは次世代への継承を意味する。この地域では比較的若く、子供もいるSさんのビールが、地域の持続性を高めていくのではないかと考えている。さらに、回答者4は、この地域の資源は全てにおいて、自然・里山から始まると主張する。会長と同じく持続可能性の重みが高くなっているが、回答者4は自然・里山を守り続けることが、この地域の持続性を高めていくとの考えを持っていると考えられる。このように、持続可能性と一言で表しても、その考えは個人によって様々であり、AHPによって回答者2と回答者4の考えの差を分析できた。これらの結果、考察を地域住民らに提示することにより、地域に対する各意見についての相互理解を深めることが可能になり、本事業的である地域住民の意思決定及び合意形成を生かした活性化案につながっていくのではないだろうか考える

● 回答者2（会長）と 回答者5（Sさん）に注目

回答者2（会長）



持続可能性 = 次世代への継承
後継者不足への危機感
Sさんのビール 優先度 高
祭り 優先度 低

回答者5（Sさん）



持続可能性 = 自然・里山
全ての根元
自然・里山 優先度 高

○ 自然・里山を次世代に継承するという共通課題



6. 今年度の活動の総括と残された課題

本事業では、福島県二本松市東和地区戸沢7区保全会を対象地区として、「地域活性化を目的とした事業では地域住民を巻き込んだ取り組みが本質的な地域活性化の達成のためにより効果的である」との考え方のもと、地域住民の意思決定及び合意形成を生かした活性化案に関する考察を行った。前節までの報告の通り、本年度の活動では、活性化案の絞り込みや、実際に活性化案を実行することにまでは作業が至らず、集落の皆さんからの意見を収集し、活性化案の候補となるアイデアの整理を行うことまでが成果となった。

次年度は、今年度の成果を基礎として、具体的な活性化案の絞り込みとその具体化について、活動を深化させていきたい。このような活動を予定する中で、今年度の反省をもととした今後の課題を以下のように整理しておきたい。

○ 課題1：集落のみなさんからの意見を取り入れた 地域資源活性化案のさらなる発掘と具体化

今年度実施した意向調査では、アンケート回収率が低かったこと（全体の回収率：31.1%）と特に 65 歳以上の構成員からの回答割合が相対的に低かったこと（65 歳以上の回答者の構成比：31.8%）の2点が反省点として挙げられる。次年度は、集落のみなさんからの意見聴取の継続と、特に、高齢の構成員のみなさんからの意見聴取を継続したいと考えている。

○ 課題2：地域活性化のための集落活動の具体化

次年度には、自然・里山、農産加工品（Sさんのビール）を注目すべき地域資源とした地域活性化のための集落活動をスタートさせたい。次年度の集落活動においては、本学の学生の積極的な参加を呼びかけ、地域活性化の基礎となる人的交流をさらに活発化させなければならないと考えている。

= 謝辞 =

福島県二本松市戸沢7区保全会のみなさま、福島県地域振興課のみなさまに対し、本年度の当研究室の活動を受け入れていただきましたことまた、1年間の活動をご支援いただきましたことについて、記し厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました

7. 資料（調査票）

- | | | |
|---------|-----------------|-------------------|
| ・とびら | 住民アンケート調査について | 次頁（ページ番号なし） |
| ・回答用紙 ① | 住民アンケート調査票 | 資料1 ページ ～ 資料4 ページ |
| ・回答用紙 ② | 主観的生活満足度に関する調査票 | 資料5 ページ ～ 資料7 ページ |

住民アンケート調査について

調査実施機関：筑波大学 国際資源開発経済学研究室 農村開発研究班

事業名：福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

連絡先：090-4382-2400 matsushita.shusuk.gb@u.tsukuba.ac.jp

担当者：松下秀介・清水悟・金子知世

はじめに

調査にご協力いただく皆様へ

私たちは、筑波大学国際資源開発経済学研究室農村開発研究班です。

本年度、福島県による「大学生の力を活用した集落復興支援事業」におきまして、戸沢7区保全会と共同で福島県の支援事業に取り組ませていただいております。先日の意向調査へご協力いただき、ありがとうございました。

意向調査の結果に従い、郵送での意見集約をさせていただくことといたしました。

別紙の調査票にご回答のうえ、ご返送をお願いいたします。

今後の活動予定

- | | | |
|-----|--------------|--------------------------------|
| 終了 | 1) 令和元年9月24日 | アンケート調査の実施に関する意向調査（本連絡） |
| 作業中 | 2) 令和元年10月 | 訪問調査 あるいは 郵送調査 による地域住民の意見集約の実施 |
| 予定 | 3) 令和元年11月 | 集落座談会による集落活性化への討論会の開催 |
| 予定 | 4) 令和2年2月 | 福島県主催の活動報告会での成果発表 |

今回の依頼内容

今回の調査は、回答用紙①と回答用紙②の2部に分かれています。両方へのご回答をお願いします。

回答用紙①では、主に世帯の構成員の内訳、地域資源に関するお考えなど、今回の活動に関する基本情報の収集を目的としています。地域資源のこと、地域活性化の課題のことについては、世帯内の複数の個人の皆さんからのご回答を期待しています。自由記述になります。どんな些細なことでも結構ですので、できるだけ多くの皆さんからの積極的にご回答をお願いいたします。

回答用紙②では、幸福感について、みなさんの主観的な評価をお聞きしております。5セット封入しておりますので、最大5名の世帯構成員の方々にご回答をお願いいたします。

ご面倒をおかけいたしますが、回答用紙①②それぞれにご回答をご記入の上、同封の返信用封筒にてご返送ください。

なお、ご回答の内容は今回の事業における支援活動のみに使用し、事業実施期間中の個人情報の秘匿と事業後のすみやかな消去をお約束いたします。

本調査や事業全体に関するご意見・ご質問等がございましたら、標記の連絡先へご遠慮なくお問い合わせください。

アンケートの返送について：令和元年10月31日までにご投函をお願いいたします
--

住民アンケート調査票

調査実施機関：筑波大学 国際資源開発経済学研究室 農村開発研究班

事業名：福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

連絡先：090-4382-2400 matsushita.shusuk.gb@u.tsukuba.ac.jp

担当者：松下秀介・清水悟・金子知世

1. 世帯属性：世帯員（世帯主と構成員3名）の構成について、以下の項目をご回答ください

	記入例	回答者	構成員1	構成員2	構成員3
氏名	金子知世				
続柄 世帯主との関係	長女				
性別	男 ○ 女	男 女	男 女	男 女	男 女
生年月日	1997 年 5 月 27 日	年 日 月 日	年 日 月 日	年 日 月 日	年 日 月 日
就業別	常勤 非常勤 ○学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職
最終学歴	高校卒 専門学校卒 ○大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()
平均収入 過去1年間の状況について、平均月額をご記入 願います	給与 10 万円	給与 万円	給与 万円	給与 万円	給与 万円
	年金等 万円	年金等 万円	年金等 万円	年金等 万円	年金等 万円
	上記以外 10 万円 (仕送り)	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()
婚姻状況	○未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別
同居・別居	同居 ○別居 (理由：就学)	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)
その他の情報					

1. 世帯属性（つづき）：世帯員（4名以上、8名まで）の構成について、以下の項目をご回答ください

	構成員4	構成員5	構成員6	構成員7	構成員8
氏名					
続柄 世帯主との関係	本人				
性別	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
生年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
就業別	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職	常勤 非常勤 学生 無職
最終学歴	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()	高校卒 専門学校卒 大学卒 大学院卒 その他 ()
平均収入 過去1年間の状況について、平均月額をご記入願います	給与 万円	給与 万円	給与 万円	給与 万円	給与 万円
	年金等 万円	年金等 万円	年金等 万円	年金等 万円	年金等 万円
	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()	上記以外 万円 ()
婚姻状況	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別	未婚 既婚 離婚 死別
同居・別居	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)	同居 別居 (理由：)
その他の情報					

※ 構成員が9名を超える場合には、調査票の裏面に記述願います。

2. 世帯主の戸沢7区での居住期間についてご回答ください。（複数期間に分かれる場合には期間ごと）

第1期	年 カ月間	年 月 ～ 年 月
第2期	年 カ月間	年 月 ～ 年 月
第3期	年 カ月間	年 月 ～ 年 月
第4期	年 カ月間	年 月 ～ 年 月
第5期	年 カ月間	年 月 ～ 年 月
第6期	年 カ月間	年 月 ～ 年 月

3. 世帯主の戸沢7区以外での居住期間についてご回答ください。(複数期間に分かれる場合には期間ごと)

場所(県・市町村・他)				
	年	ヵ月間	年	月 ～ 年 月
	年	ヵ月間	年	月 ～ 年 月
	年	ヵ月間	年	月 ～ 年 月
	年	ヵ月間	年	月 ～ 年 月
	年	ヵ月間	年	月 ～ 年 月
	年	ヵ月間	年	月 ～ 年 月

4. 集落の地域資源としてアピールできるものは何ですか？(回答者, 構成員個人のご意見)

自由記述：回答者	

自由記述：構成員 ()	⇐ 問1で整理いただいた構成員の番号をご記入ください.

自由記述：構成員 ()	⇐ 問1で整理いただいた構成員の番号をご記入ください.

※ 有形無形は問いません。豊かな自然、多様な動植物、祭、神社仏閣 等々、具体的にご記入ください。

5. 集落の活性化に取り組むための課題として考えることは何ですか？（回答者，構成員個人のご意見）

自由記述：回答者	
----------	--

自由記述：構成員（ ）	⇐ 問1で整理いただいた構成員の番号をご記入ください.
-------------	-----------------------------

自由記述：構成員（ ）	⇐ 問1で整理いただいた構成員の番号をご記入ください.
-------------	-----------------------------

※ 後継者問題 人手不足 交通の便 地域資源の枯渇 等々，具体的にご記入ください.

6. その他，本事業における大学生との交流に期待すること，求めたいことなど（自由記述）

--

主観的生活満足度に関する調査票

調査実施機関：筑波大学 国際資源開発経済学研究室 農村開発研究班

事業名：福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

連絡先：090-4382-2400 matsushita.shusuk.gb@u.tsukuba.ac.jp

担当者：松下秀介・清水悟

1. あなたは最近のご自身の生活全般について、どの程度満足しておられますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0, 完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

2. あなたの昨日の気分をお聞きます。

昨日の生活全般について、どの程度幸福感を感じられましたか。

全く感じなかった	1日中幸福感を感じていた
0	10

全く幸福感を感じなかった場合に0, 1日中幸福感を感じていた場合を10とする11段階での評価をお願いします。

昨日の生活全般について、どの程度不安感を感じられましたか。

全く感じなかった	1日中不安感を感じていた
0	10

全く不安感を感じなかった場合に0, 1日中不安感を感じていた場合を10とする11段階での評価をお願いします。

昨日の生活全般において、どれくらい精神的に落ち込んでいましたか。

全く落ち込んでいなかった	1日中落ち込んでいた
0	10

全く落ち込んでいなかった場合に0, 1日中落ち込んでいた場合を10とする11段階での評価をお願いします。

3. 1の満足感を判断する際に、重視した事項は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 家計の状況	7 精神的なゆとり
2 就業状況	8 趣味、社会貢献などの生きがい
3 健康状況	9 家族関係
4 自由な時間	10 友人関係
5 充実した余暇	11 職場の人間関係
6 仕事の充実度	12 地域コミュニティとの関係

4. あなたの満足感を高めるために重要な方法は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 あなた自身の努力	4 社会（地域住民等）の助け合い
2 家族との助け合い	5 職場からの支援
3 友人や仲間と助け合い	6 国や地方の政府からの支援

5. 5年前、あなたはご自身の生活全般について、どの程度満足しておられましたか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0、完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

6. 5年後、あなたはご自身の生活全般について、どの程度満足しておられると推測できますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0、完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

7. あなたは最近のご自身の生活における特定の側面について、どの程度満足しておられますか。

a) あなたは最近のご自分の生活水準に、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0、完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

b) あなたは最近のご自分の健康状態に、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0、完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

c) あなたは最近のご自分の人間関係に、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0、完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

d) あなたは最近のご自分の安全安心感に、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している
0	10

全く満足していない状態を0、完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

e) あなたは最近のご自分の地域社会への所属感に、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している									
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

全く満足していない状態を0, 完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

f) あなたは最近のご自分のしたいことができる時間の長さに、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している									
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

全く満足していない状態を0, 完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

g) あなたは最近のご自分の住んでいる地域の環境の質に、どの程度満足していますか。

全く満足していない	完全に満足している									
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

全く満足していない状態を0, 完全に満足している状態を10とする11段階での満足度の評価をお願いします。

8. 農業への従事状況について、ご回答ください。

農地保有		農業生産活動		類型	選択：いずれかに ○
有	➡	従事している	➡	I	
		従事していない	➡	II	
無	➡	従事している	➡	III	
		従事していない	➡	IV	

9. その他、あなたの幸福感に関するお考えなど（自由記述）